

第 91 回柏崎市都市計画審議会 議事録

日 時 : 令和 4(2022)年 2 月 28 日 (月)
午前 9 時 30 分から 11 時 00 分

会 場 : 市役所本庁舎 4 階 4-3、4-4 会議室

柏崎市都市整備部都市計画課

第 91 回柏崎市都市計画審議会議事概要

日 時 令和 4(2022)年 2 月 28 日 (月) 午前 9 時 30 分から 11 時 00 分

会 場 市役所本庁舎 4 階 4-3、4-4 会議室

出席委員 11 名 樋口会長、権田委員、佐藤代理者(金子委員代理)、安井委員
佐藤委員、栗林委員、相澤委員、山本委員、田邊委員、大掛委員
吉田委員

配布資料 第 91 回柏崎市都市計画審議会次第
委員名簿

資 料 1 意見募集 (パブリックコメント) の結果

資 料 2 柏崎市立地適正化計画【概要版】

議題 1 立地適正化計画の策定について

—事務局から資料 1・2 に基づき説明—

会長：

パブリックコメントの一つ目では、基本方針について長くてわかりづらいという意見を受けて、修正案が記載されています。こちらについて皆様ご意見、ご質問があればお願いします。

委員：

意見が二つしか出なかったことは、寂しく感じています。何か理由があるのではないかと思います。計画の制度自体がわかりづらいと思いますし、身近な計画としてとらえてもらえなかったのではないかと考えています。意見が二件しかなかったことについて考えなければいけないと思いますし、この二件の意見は丁寧にお答えしたほうが良いと思います。

一つ目の意見について、私もこの意見のとおりだと思います。修正案では、市がどの方向に進むのか具体的ではない。「母になるなら流山」のようなインパクトのあるキャッチフレーズのように市の方向性が、基本方針の二行から伝わるようにしたほうが良いと思います。

会長：

ご意見いただきありがとうございます。非常に重要なご指摘だと思います。意見が二件しかなかったことについて事務局はどうお考えでしょうか。

事務局：

パブリックコメントにつきましてはホームページ、各所に素案を配置し、意見を募りました。確かにこの計画自体が、なじみのないものでわかりづらいというところはあると思います。その部分については策定段階において、ニュースレターという形で情報発信してきましたので、ある程度は浸透してきたのではないかと考えておりますし、報道の皆様からも各誌報道していただいていたと思います。

会長：

ありがとうございます。このニュースレターは全戸に配布されてきたのでしょうか。

事務局：

全戸配布はしていません。

会長：

きちんと情報の発信をしていたという経緯があつて、結果として二件しか集まらなかったということではよろしいでしょうか。他の都市の状況も、それほど多くの皆様から意見が出てくることは少ないようです。〇〇委員いかがでしょうか。

委員：

市民になじみにくいのは、会長がおっしゃったとおり制度自体の問題もあるのかなと感じました。

会長：

事務局が言った通り、制度自体にあまり強制力があるものではなく、非常に緩やかに居住を誘導するもの、実効性に心配がある、人口減少をすぐ止めるのは難しいですが、それがこの計画のよい点でもあり、悪い点でもあります。これからどのように運用していくかが重要になります。

少し話を戻しまして、〇〇委員から基本方針の修正案について意見がありましたが、他の皆様はいかがでしょう。

委員：

私は〇〇委員と違ひまして、この修正案はコンパクトで非常に良いと思いました。若者子育て世代にターゲットを絞って、安心・便利・楽しい まちなかの暮らしの文言が計画の概要を表していると思います。ただ人口減少をどのように止めるかについて櫻井市長も考えている中で、このように言葉を載せるのはいいと思いますが、どのように計画を進めていくかがより重要になっていくと思います。

会長：

ありがとうございました。もう少し皆様から意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

委員：

〇〇委員がおっしゃったように、修正案はすっきりしていてわかりやすいと思います。最近テレビで転出超過が話題になり、新潟県の中でも柏崎市はかなり上位でした。若者・子育て世代や県外、市民にアピールできるようにこれから肉付けして行ってほしいと思います。

委員：

修正案は非常にコンパクトでわかりやすくなっていると思いますが、〇〇委員が言われていたように、キャッチーでインパクトのあるようなフレーズが足りないと感じました。若い方がいったんは市外に出ても戻ってきたいなと思うようなものがあつたらいいなと思いました。

委員：

父親としての立場でお話させていただきますと、私は西本町生まれですが、田尻に家を建てました。周りはずべて新築です。まわりのお子さんも自分の子供と同年代で、親の世代も私と同じで、西本町に住んでいたら、周りの子供は2、3人という状況です。田尻の人口はどんどん増加しており、都市の中心部より、周辺部のほうに人口が集中しているのを感じています。私の周りでは同世代が多く、いつも密に会話を交わし、だからここに住んでよかったなと思うことがあります。都市の中心部に皆さんが家を建てないのは、土地が高いからと知っているからで、これからかなり安くなり、家を建てるのも難しくなることを、みんな知らないですよ。1～10歳の子供たちは公園に行きたがりますが、そこで連れて行くのは市外の公園が多いです。奥様方からは元気館は寒いし、汚い、潮風公園は遊具が改修工事で使えないなどの声が聞こえてきます。外で遊べないと家でゲームをしたり、ましてや公園でゲームをしていることもあります。柏崎で稼いだお金を市外で落とす悪循環になっています。そういった子育て世代の小さな声を拾い上げることが、若者・子育て世代が戻ってくるきっかけになると思います。

会長：

非常に貴重な意見だと思います。先ほど実効性のない制度といいましたが、そういったように見えてしまうことが、この計画にはあると〇〇委員のお話を聞いていて思いました。現在の修正案に何か加えるとしたら、どのようにお考えですか。

委員：

今の修正案の二行は非常にいいと思いますが、少しキャッチーではなく、若者たちが耳を貸さないなと思いました。

委員：

自分の大学の生徒 30 人に計画の概要版などを読ませて若者世代の感想を宿題として出させました。そこで「はじめてこの計画を知りました」という意見もありました。また「圧がすごくて、引いてしまいます」という意見が出ました。文面では困りごとが記載され、「皆さん何とかしてください」と無限の可能性のある世代に対して、自分の上の世代が作った問題を与えられ、どうにかしてください、というふうに受け取られています。そういうメッセージの伝え方は、みんな逃げて行ってしまいますから、どうやって若者世代に伝えていくかが大変重要だと思います。多少苦労はするが、自由にやりがいのあるものを自分たちで作っていく喜びがあるイメージを持ってもらうようにしたほうがいい。市内の大学に進学する県外や留学生はいるわけだから、残ってもらうようにしないといけない。今までのように使命感で地元に残るのではなく、わくわく感で住んでもらうような計画の情報発信の仕方考えたほうがいいと思います。基本方針はこのままでいいですが、今後の計画の運用について若者子育て世代にわくわくを提供するような誘導施策を考えたほうがいいと思いました。

会長：

ありがとうございます。根本的なご指摘だったと思います。普段から若者世代と接する方の代表した意見だったと思います。計画の中身はこれでいいと思いますが、伝え方の問題かなと思いました。

委員：

基本方針の修正案は短くなって非常にわかりやすくなったと思います。そこにキャッチフレーズも付け加えようとする、なかなかハードルが高くなってしまうので、まずは基本方針としては、この方向でいいと思いました。キャッチフレーズについては、先ほどお話にも上がりましたわくわく感をもたせるようなものを逆に市民の皆さんから公募するなどしてもいいと思います。

会長：

只今非常に重要な意見が皆様から出てまいりましたので、議事録に残していただいて、今後この計画を運用する際に、「若者・子育て世代が今どう思っているか」、「学生たちにどう興味を持ってもらうか」などを今後の施策展開の際に反映していただければと思います。では、1つめの基本方針について、事務局の修正（案）に対して、異議はありませんでしょうか。

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。1 つ目のパブリックコメントについては審議会としてこの修正(案)を承認したいと思います。

2 つ目の取組施策についてですが、〇〇委員の話でもありましたが、現在どの地方都市でもニュータウンの問題が深刻になっています。同様のことが郊外住宅地で起きてくるのは間違いなくあると思います。同じ事をこのまま繰り返していくことは良くないということで、まちなかに居住を誘導する話になっています。しかし現状ですと、まちなかにはなかなか戻れないので、不動産関係者とまちなかを創りこんでいかないとはいけません。魅力的なまちなかを創りつつ、今ある市街地は維持し、これ以上は広げないようにすることが大切だと思います。

2 つ目の取組施策に対するご意見について、事務局も本計画で、若者・子育て世代に居住地としてまちなかを選んでもらえるよう、具体的な施策に取り組んでいくということなので、こちらについても、審議会として異議なしとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。それではパブリックコメントについては、了承していただきました。

その他全体を通してご意見ある方はいらっしゃいますでしょうか。

委員：

前回の審議会の緑の資料では、取組施策が具体的に記載されていましたが、概要版ではかなりコンパクトになったので、もう少しわかりやすくしたほうが良いと思います。文字が多いと感じるので、もう少し以前のようにビジュアルで記載することはできないでしょうか。

事務局：

貴重なご意見ありがとうございます。我々も若者子育て世代にわくわくしてもらえるように、手に取ってもらえるようにパンフレットづくりの準備をしております。出来次第皆様に郵送しますので、よろしくお願いいたします。

委員：

今年の1月に自分の周りに若者家族が住みはじめました。町内としても貴重な若者・子供

ですので、心地よく町内で住んでもらえるよう協力していきたいと思います。大学でもまちなかの寺に注目した活動もあり、よりまちなかが活性化できるよう町内に住む者として協力していきたいと思います。

委員：

私が所属する青年工業クラブは、市内の製造業の若手で組織されている団体です。市長がおっしゃられたように柏崎の基幹産業は現在製造業であります。コロナ禍ではありましたが、概ねこの会社も好調でございますが、一番の問題が働き手不足です。ハローワークで製造業の募集をしても応募が来ないため、モンゴルの方や中途採用の方に来てもらったりしています。市内の大学はありますが、市外に流れてしまいます。働き口がないことはないのです、若者が市内に残る取組をしていただいで、この計画がうまくいくことを願っています。

会長：

まさに現場のお話をしていただきました。ありがとうございました。今のお話を聞くと、うまく歯車が回ると、柏崎市も素敵な地域になると思えました。学生の住まいの選択、アパート代の問題はどの町でも起こっています。その流れを変えなくてはいけないですが、どう変えていくかがこれからの思案だと思います。せつかくのご意見ですので、これからの取り組みに反映していただければと思います。

それではここで議題1「立地適正化計画の策定」について、審議会として「異議なし」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。それでは「立地適正化計画の策定」について、「異議なし」と答申いたします。事務局につきましては答申書のご準備をお願いいたします。

最後になりますので、いろいろ意見が出ましたが、まだご発言してない委員の方もいますので、皆様から感想でもよいので一言ずつお聞きしたいと思います。

委員：

ほかの委員の方から発言のあった若者の感性というのは素晴らしいなと感じました。それだけでも、この審議会に参加して良かったなと思います。ありがとうございました。

委員：

〇〇委員のおっしゃった「圧が強い」という言葉などが胸に残っていて、春から高校3年生になる子供がいますが、話を聞いてみると柏崎からどうやって脱出するか、など考えてい

るようです。私たちが住む柏崎ではどんどん大きなお店がなくなって、だから市外に買い物に行く人が増えているという負のスパイラルの〇〇委員のお話にも私も同様なことを感じました。若者にこうしていただきではなく、私達自身でどうにかするというのを考えました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

委員：

皆さんの様々なご意見が聞けて勉強になりました。私には3人子供がいますが、長男・次男は高校、大学卒業後柏崎が好きだということで就職しています。そういった若者の声を聴いていただいて、今後の施策に活かしていただければいいなと思います。子供たちは一度市外に出ていきますが、ふるさとは必ずありますし、嫌いだという人もいないと思うので、子供たちが帰ってきたくるようなまちづくりを私自身していければなと思います。

委員：

一年間ありがとうございました。最近テレビでお米の需要を高めるアニメが流れていました。若い世代はユーチューブをよく見る時代なので、事務局も冊子を作る際は、アニメ風にするとか、子供が見てもわかるようにすることを考慮してもらい、若者の目に留まるようにしていただきたいです。

委員：

本日はありがとうございました。資料の人口減少の現実をみるとかなり衝撃を受け、近い未来こうなってしまうのだなと思いました。市民の意見を聞き、パブリックコメントを募集しても二件しか来ない現実には寂しく感じます。子育てでいえば主役はお母さんたちで、身近では意見交換をしますが、市への意見は、なかなか出ないのが現実です。青年会議所などの若い世代の団体に意見を出してもらって、取りまとめて意見を取ることも有効ではないかと思います。生の意見を反映することが大事なのではないかなと思いました。

委員：

先ほど〇〇委員が発言したように、若者世代の住む場所についてもありましたが、駅前、駅中の空き家を工科大学がリノベーションを行った事例があるように、この施策でシェアハウスなどとして活用してほしいと考えています。地元で生き生きと働く人がこれから増えることを願っています。これから一講師として子供たちに柏崎の魅力を伝えていければと思います。ありがとうございました。

委員：

一年間ありがとうございました。私は農業関係ですので、都市計画についてはあまり知ら

なかったのですが、大変勉強になりました。計画を作っても皆さんに知ってもらえないといけないので、伝え方も重要です。また、まちなかの市民満足度が半分以上になるといいなと思っています。

委員：

一年間ありがとうございました。私も行政の立場の人間ですので、非常に耳の痛い意見も多く、その通りだなと思う事ばかりでした。市民の皆さんの意見を集めるということは非常に難しく、いかに聞いている人を引き付ける説明の仕方をするかが大事なことだとわかりました。これからの業務の参考にしたいと思います。

委員：

〇〇にこの会の説明をすると毎回2点話すことがあります。この計画に対し若者・子育て世代の意見をどれほど反映させているか、そしてまちなかの活性化の中で住宅が密集し、道路が狭いということです。住宅・緑地・道路整備を今後どうしていくかが大事だと思います。いろいろな方の意見をどんどん聞き、具体策に反映させていってほしいと思います。そのためにも若者が参加しやすい環境づくりが大事だと考えます。

委員：

ターゲットを若者世代に絞ったので、本当にその方たちに届くようにしていただくことに尽きると思います。計画策定根拠などは良いので、実効性の部分で各所に出向き、現場の意見をきちんと聞くなど、いままでのノウハウとは違った手法で実行していただきたいです。これからの楽しみにしています。ありがとうございました。

会長：

東京に住んでいると、なんとなく楽しい雰囲気はあるなと思います。一度家を出て柏崎に戻ってきて楽しいと思う人もたくさんいると思います。〇〇委員のお子様の話も多分そういう事なのではないかと思います。帰ってきたときにいいなと思ってもらえる場所をどうやって作っていくかで、この先の柏崎が決まっていくのではないかと思います。生産年齢の話でも、働き手の年齢が伸びる社会になっていくと、今後グラフは変わってくると思います。その中で年少人口・生産年齢人口が少ないのは問題ですので、柏崎は住んでいて楽しいぞということを皆さんと発信していければなと思います。ありがとうございました。

それでは、以上で予定されていた案件がすべて終わりました。

事務局：

会長、大変ありがとうございました。続いて、会長から先ほど依頼を受けました「答申書」の準備が出来ましたので、会長と副会長から、都市整備部長へ、答申書と計画書を手渡して

いただきたいと思いをします。

答申

事務局：

ありがとうございました。お席にお戻りください。今後の予定についてですが、答申していただいた内容を市長に報告するとともに、計画の策定についての決裁を取ったのち、策定が完了する流れになります。運用につきましては令和4（2022）年4月1日から運用開始となります。冒頭申しました通り、この計画書の製本ができ次第、後日郵送いたします。最後に閉会の挨拶を都市計画課 課長から申し上げます。

事務局：

この度は立地適正化計画の策定に関しまして、活発なご審議、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今ほど事務局が申しあげましたように本計画につきましては、4月1日から運用という運びとなります。私どもといたしましては、この計画の中に12の誘導施策が掲げられていますが、これだけで目標を達成できるものとは考えておらず、不足の部分また新たに見えてくる課題に対しては適切な時期に適切な内容で計画を見つめなおし、取り組んでまいります。今後取組を実施する中で若者に見てもらえ、わくわくするような発信の仕方ができればなと思います。

事務局：

それでは本日は、委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、第91回柏崎市都市計画審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

終了 午前11時00分

柏崎市都市計画審議会

署名委員

署名委員